

林業ぐんま



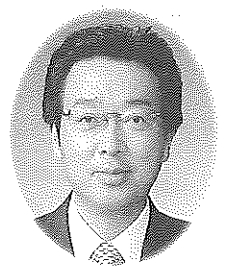
平成28年度森林土木写真コンクール (題名 山腹工事完成)

目次

会長・環境森林部長新年挨拶	1
林政情報	2
平成二十八年度群馬県建設工事表彰普及コーナー	3
ぐんま林業学校	3
森林・緑整備基金だより	4
分収林の三年間(健全経営を目指して)各地のたより	4
(渋川) 苗木生産の安定確保に向けて	5
(西部) 森林境界明確化研修会について	5
(藤岡) 地域で考えるシカ被害対策	5
(富岡) 炭焼窯の視察研修会を実施	5
(吾妻) 「吾妻地区の木材生産に係る協定」を締結	5
(利根沼田) 木炭で須藤氏「森の名手名人」に認定	9
(桐生) 群馬の森体験教室を開催	9
地域を担う人	9
小嶋 慎也さん 飯塚 実さん	9
剣持 正さん 田中 星也さん	9
石坂 修三さん	9
森の談話室	11
「持続的な経営を目指して」	11
高崎市下室田町 藤井 正吉さん	11
懐かしいあの頃	12
林業危機突破大会(昭和五十八年)	12
トピックス	13
群馬県児童生徒木工工作コンクール	13
群馬県林業技能競技会が開催されました	13
お知らせ	13
きこの品評会	13
農林水産業関係機関成果発表会	14
林業労働力情報	14
「森林・林業を支え、みどり豊かな	14
郷土群馬づくりに貢献する」	15

新春

2017



群馬県林業改良普及協会長

新井 雅博

新年明けましておめでとうございます。皆様には、常日頃から当協会の運営につきまして、格別なるご支援ご協力を賜り、衷心より感謝申し上げますとともに、厚くお礼申し上げます。

昨年は、リオ五輪も日本勢の大活躍で幕を閉じ、いよいよ東京五輪の準備が本格化します。メイン会場である新国立競技場は、木材をふんだんに使った設計が決まり、林業関係者の関心が高まっています。木造による高層建物が可能なCLT（直交集成板）を使った工法も広まりつつあり、木材の消費拡大が期待されています。また、二〇二〇年以降の地球温暖化対策の「枠組み」を定めた「パリ協定」が採択され、森林の二酸化炭素吸収源としての役割が京都議定書に引き続いて認められ、その役割発揮のための施策の継続拡大が期待されるところです。

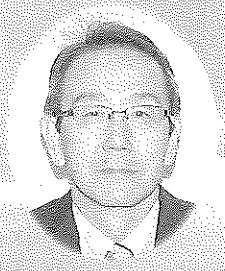
森林は、所有者の経済活動としての保育作業等によって、さまざまな機能が維持されてきました。現在、その多くが収穫期を迎えているにもかかわらず、木材価格は再生産可能な額を下回り続けております。林業に関する国や県の助成策の恩恵も、なかなか森林所有者までは届かないのが現状です。

このような中、県では森林面積だけでなく林業生産活動も関東で一番になるべく「森林県から林業県へ」を合言葉に、素材生産量年間四十万立米の目標を前倒しに進めており、当協会としても、林業普及指導事業を中心に積極的な協力を進めてまいります。

国民の祝日「山の日」も昨年八月からスタートしました。

また、昨年は、三月と十一月に林業技能競技会が高崎市の「もてなし広場」で開催され、多くの観客の前で若い技術者がチェーンソーの腕前を競い、一昔前の山仕事のイメージを一新した感があります。明るくかつこい、若者が支える明日の林業に期待し、これからも応援していく所存です。

結びに、会員並びにご家族の皆様がご健勝でご活躍されますようご祈念申し上げます、新年にあたってのあいさつとさせていただきます。



群馬県環境森林部長

井田 由夫

新年あけましておめでとうございます。群馬県林業改良普及協会の皆様には、本年が幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年は、林業界の念願でもあった「山の日」を定める法律が施行され、8月11日が国民の祝日となりました。「山の日」をきっかけに、日頃から山と親しんでいる方々だけではなく、普段は山に関わりのない方々も山への関心を深めていただき、森林の整備・保全や林業の成長産業化へ繋がることを期待します。

また、4月からは、人口減少対策を土台に据えた、群馬県版総合戦略に加え、新たな県政の羅針盤である新総合計画をスタートさせました。

これに呼応して、森林・林業施策につきましても、群馬県森林・林業基本計画の中間見直しを行い、計画年度を一年前倒しして、「林業県ぐんま」の実現に向けて取組を加速しております。

具体的には、4つの県地域機関に、施業の集約化と木材安定供給対策の構築を担う集約化専門官を配置し、木材のサプライチェーン構築に向けた取組を重点的に進めております。

本県には豊富な森林資源があり、加えて、大都市圏に近いという地理的優位性もあります。これらのメリットを最大限に活用し、計画の目標である、林業の再生と成長産業化の実現に向けて、引き続き取組を加速させて参ります。

また、本県のきのこ産業におきましては、昨年、原木しいたけの生産量が増加に転じるなど、原発事故や大雪の影響から立ち直り始め、きのこ産業全体に明るい兆しが見えてきています。県としてもきのこ産業の再興に向けて全力で取り組んで参りますので、関係者の皆様のご協力をお願い致します。

本年も市町村や関係団体の皆様と連携し、本県の林業・木材産業、及びきのこ産業の発展のために努力して参りますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

結びに、皆様のご活躍とご健勝を祈念申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

林政情報

平成28年度 群馬県建設工事表彰

群馬県建設工事表彰は、県民の生活及び経済活動等の基盤となる社会資本整備を適切に推進するため、県が発注した建設工事等について優秀な技術により施工した建設業者等を表彰し、品質の高い工事を確保するとともに、建設業等の発展及び施工技術の向上に資することを目的として、毎年、知事表彰、部長表彰、所長表彰を行っています。

環境森林部発注工事に係る平成二十八年度の表彰工事は、二十七年度に完成した契約金額五〇〇万円以上の対象工事二百八十七件の中から、それぞれ品質管理・出来形・出来映え等の審査基準により、各審査会で厳正な審査が行われ、知事表彰三件が九月七日、部長表彰九件（特別表彰二件含む）が九月十六日、所長表彰七十七件は各発注事務所の表彰式で受賞の榮譽に輝きました。

受賞された皆様にご心よりお祝い申し上げますとともに、今後益々の御研鑽をお願いいたします。

（森林保全課）



②知事表彰 安中市松井田町土塩(小根山)地内



①知事表彰 北群馬郡榛東村山子田(峰林)地内

平成28年度 群馬県建設工事表彰一覧表(知事・部長表彰)

1 知事表彰 3箇所 3社

施 工 者	技術者名	事務所名	写真番号
勝野建設㈱	勝野 政和	狩野 涼	波 川 ①
㈱ 萩原工業	萩原 哲也	石井 雅人	西 部 ②
㈱ 金子建設	金子 和利	金子 晴三	桐 生 ③

2 部長表彰 7箇所 7社

施 工 者	技術者名	事務所名	
上毛緑産工業㈱	高橋 範行	塩野 岳憲	波 川
㈱ 廣友土建	廣神 孝俊	青木 裕人	西 部
土屋建設㈱	畑 行至	小坂橋 照男	西 部
萩原建設㈱	萩原 信大	清水 雅彦	富 岡
㈱ 千島工務店	千島 三亀夫	後藤 伸一	香 妻
㈱ 金子建設	金子 和利	松嶋 宣繁	桐 生
㈱ アイビク	加藤 勝弘	前村 栄一	桐 生

3 部長特別表彰 1社1団体

受賞者	受賞団体	事務所名
山 藤 組	山藤 浩一	桐 生
群馬県森林土木建設協会	山藤 浩一	全 県



③知事表彰 みどり市東町沢入(イボ沢)地内

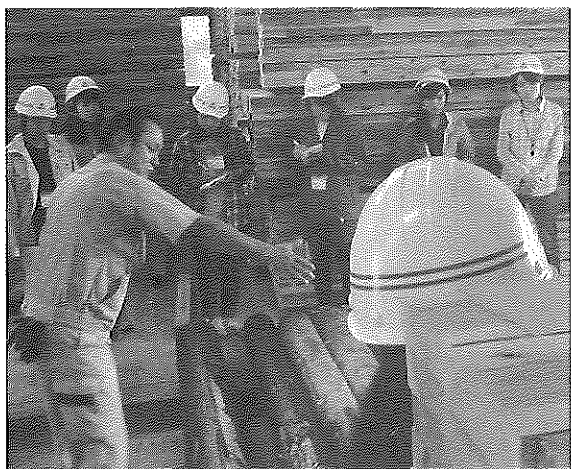
ぐんま林業学校

林業の成長産業化を目指し、「林業県ぐんま」の実現を加速させるためには、人材の確保・育成は重要な課題の一つです。県では、この課題解決に向け、事業を実施しています。

○人材確保のための事業

・ぐんま森林・林業ツアー（女子学生編）

首都圏の若年女性に、森林・林業への関心を深め、林業就業へつなげてもらうため実施しています。今年度は、九月十三日に開催し、十六名の方が参加されました。伐木造材現場、製材工場の見学や、女性就業者との交流を図っていただきました。



製材工場見学の様子

また、県内高校生を対象とした同様のツアーも行っています。

○人材育成のための事業

・高性能林業機械技術者養成研修

高性能林業機械の普及に伴い、効率的かつ安全な機械運転操作が求められます。このため、従事者を対象に、基本的な機械操作・作業計画並びに機械メンテナンス等について研修を実施しています。今年度は、九月二六日から五日間で行い、八名の方が受講されました。



高性能林業機械研修の様子

高性能林業機械の養成研修は、平成七年から行われているオペレーター育成研修から数えると、二二一名の方に受講して頂いております。

ます。本県における高性能林業機械の導入にも繋がっていると考えられます。

・森林作業道設研修

森林作業道は、地域の状況にあった林業機械や作業システムに適合しているとともに、災害の発生源とならないよう適切に作設される必要があります。そういった作設技術を有するオペレーターを養成するため、研修を実施しています。

今年度から始めた研修で、五日間の日程で二回実施し、十名の方が受講されました。



作業道研修の様子

今回紹介した事業以外にも、林業基礎研修、森林施業プランナー研修等も行っています。翌年度以降も実施する予定ですので、積極的な参加を期待しております。

分収林の三年間（健全経営を目指して）



森林整備後の状況（藤岡市「法久」社営林）

平成二十五年十月に林業公社から一、九九八haの分収林を引き継いで、三年が経過しました。

平成二十六年三月には『分収林の管理・経営の基本方針』を策定し、『林業公社の二の舞にならない！ 轍は踏まない！』を肝に銘じ、費用の縮減と収入の確保を徹底して効果的かつ合理的な経営に努めて参りました。

また、『おっー良い山になったね』と言われるような山づくりを目標に、適切な分収林の管理にも取り組んで参りました。

主な取り組みと実績

年度	分収林面積 (ha)	保育面積 (ha)	作業道開設延長 (m)	利用間伐面積 (ha)	素材販売材積 (m ³)	借入金残高 (千円)	森林資産振替額 (千円)
25	1,986	169	—	—	—	539,647	16,659
26	1,986	240	8,888	30	2,132	556,488	343
27	1,941	318	8,068	89	5,814	529,986	▲8,073
28	1,916	203	14,100	89	6,425	519,393	21,320

*28年度は変更計画及び補正予算額、他の年度は決算数値である。

一、費用の縮減
 主な取り組みは、次のとおりです。
 分収林担当者数 五人から二、三人に削減

二、収入の確保
 効果的な利用間伐に取り組み、素材販売収入四、六〇〇万円余を確保見込み。

三、解約の促進
 三年間で七十九haを解約



効率的な間伐（下仁田町「高岩」社営林）

基金では、今後も健全な分収林経営を目指し、役職員一丸となって取り組んで参ります。皆様方の変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

の便り

苗木生産の安定確保に向けて

「森林整備の第一歩は、苗木の生産から始まるもの」と言われ、当渋川森林事務所管内は、林業用苗木の生産者が県内で最も多く、県内造林地の苗木のほとんどが管内で生産されています。

群馬県森林・林業基本計画では、年間素材生産量四十万㎡の達成に向けて、年間二千haの利活用間伐と三百haの皆伐を推進し、森林資源の循環利用を図ることをしています。

皆伐、再造林の推進は、現在の高齢級の森林に偏っている齢級構成を平準化し、将来の森林資源を確保するためにも取り組まなければならぬ課題であるほか、若い木が旺盛に生長することで、二酸化炭素の吸収能力が高まり、合わせて森林の有する公益的機能が持続的に発揮されることが、森林県であり水源県である本県の役割であると考えています。今後の皆伐、再造林の増加に対応するため、林業用苗木の安定した供給体制を再度構築す



る必要があるとともに、低コスト造林に向けたコンテナ苗木の生産施設整備や育林コストの低減につながる初期成長の早い少花粉スギ等の生産を促す必要があります。

苗木生産者は、管内においても徐々に減少・高齢化しつつありますが、将来的な苗木需要量の見通しが立てば、計画的な生産は可能であり、現在、生産している苗木生産者によって、県内の必要量を賄えることができます。

そのためには、毎年十二月に開催される「群馬県林業種苗需給調整協議会」において、長期的な需給の見直しや関係機関による三年後の造林計画に基づく正確な苗木需要量の把握が必要であり、これによって適正な苗木生産を行うことが可能となります。

また、林業用苗木の価格は、数十年來変わっていないことから、苗木生産者に対する施設整備費の補助や後継者の育成を支援する制度の充実など、緊急に対策を講じる必要があると感じています。



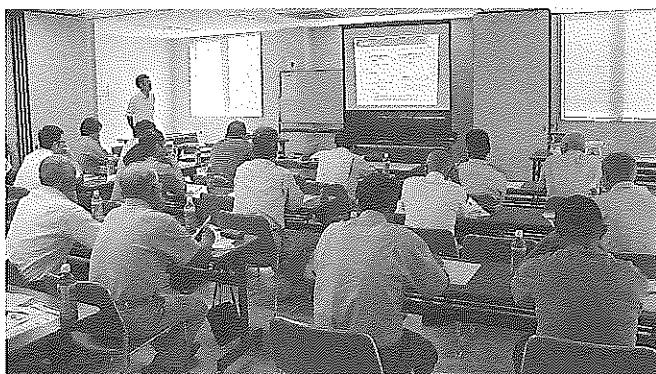
森林境界明瞭化 研修会

木材価格の低迷や山村地域の過疎化・高齢化など森林・林業を取り巻く環境は、依然として厳しい状況にあります。

このような中、集約化を行い森林経営計画による計画的な森林経営を進めているわけだが、とりわけ大きな課題になっているのが、「森林所有者自身が自らの山の場所がわからない」などの森林の境界に関する問題です。

そこで、西部環境森林事務所では、「森林の境界明瞭化研修会」を8月30日、9月1日の二回開催しました。

研修会では、森林の境界明確化に積極的に取り組んでいる、民間の測量コンサルタントから、講師を招

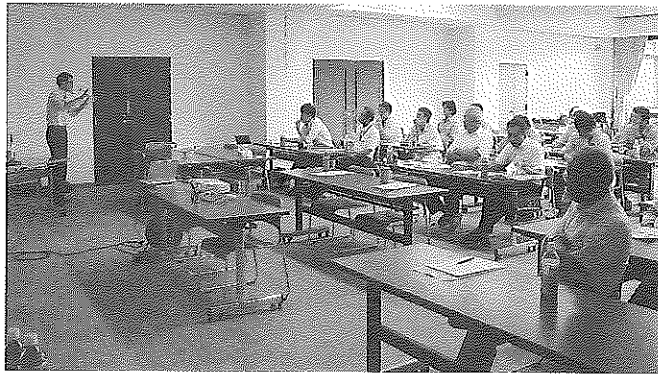


参加者の様子

各地

き、実際の取組事例をもとに「森林の境界確定について」と題して講演を頂きました。

講演では、記憶はいずれ失われてしまいが、記録は後世にまで残すことができることから「頭の中を記憶を記録化（デジタル化）することの重要性や、そのためのデジタルコンパスやハンディGPSなどのデジタル機器の活用方法、取組に要したコストなど様々な境界の確定に関する説明が行われました。



参加者の様子

また、近年、活用が注目されるドローンを使った森林の撮影などの最新の技術を活用した事例紹介も行われ参加者の興味を呼んでいました。

(西部環境森林事務所通信員)

地域で考えるシカ被害対策について

近年、シカの生息範囲の拡大に伴う農林業への被害が深刻化するなか、被害対策への理解を深めていくため、県主催（鳥獣被害対策支援センター、藤岡地区農業指導センター、藤岡森林事務所）、市町村（藤岡市、神流町、上野村）の共催により、十月五日（水）神流町こいこいアイランド会館で「シカ被害対策セミナー」を開催しました。セミナーには農林業の関係者約八十五名が参加し、シカの生態を学び、被害対策を真剣に考えました。

第一部の講演に先立ち、農業指導センター並びに森林事務所から、近年のシカを含めた



古谷先生による講演

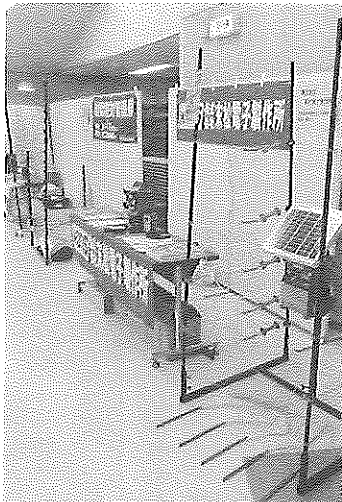
獣害による県内の被害・捕獲等の状況についての説明を行いました。

続く講演では、隣接する埼玉県秩父市で早くから被害対策の指導にあたられている埼玉県農業技術研究センターの古谷先生を講師に招き、あらためてシカの生態について触れながら、生産者側の注意点や対策として有効な防護柵等の設置のポイントについてわかりやすく説明がありました。特に、シカがわなを避ける様子や、誤ったわなの設置でシカが侵入してくる様子について映像を使つての説明については、参加者全員が食い入るように聞き入っていました。

第二部として講演後には、鳥獣被害対策の資材を扱うメーカーが資材の有効的な使い方

を参加者に説明しました。今回のセミナーがそれぞれの地域ぐるみで取り組むことへの意識改革につながるきっかけとなることを期待しています。

(藤岡森林事務所通信員)



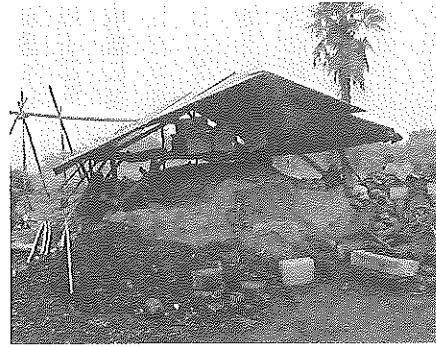
メーカーによる資材展示

の便り。

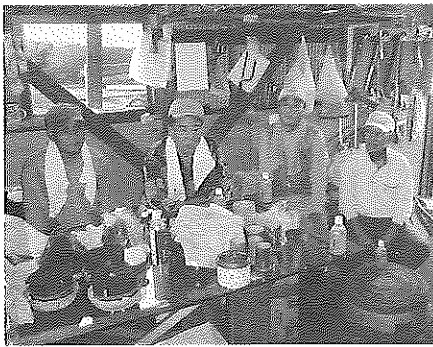
炭焼窯の視察研修会を実施

甘楽富岡木炭協会では十月三日に、会員の製炭技術の向上と管内の製炭者間の交流を図るため、管内の製炭者が築窯した炭窯を視察する研修会を開催しました。

視察した炭窯は甘楽町福島地内で活動する



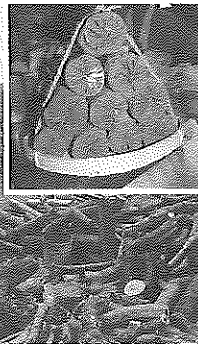
甘楽町福島地内の「二日市窯」



炭焼き会員への聞き取り

会「二日市窯」が平成20年度に具木炭協会の補助事業を活用して築窯した黒炭窯で、一度に約4㎡、2トントラック2台分の木材を製炭することができま

す。材料の調達には甘楽町内のシルバー会等が竹林整備をした際に、竹材を指定した長さに揃えて道端に集積してもらった後に会員が収集する仕組みで、会員の多くが地元区長OBといふこともあり円滑に進められています。桑材についてはかつて養蚕の食餌として栽培されていた桑畑が放置され高木化したものを環境整備のため伐採した材を受け入れており、整備された状況を見た周囲の土地所有者からも引き取りの依頼があり、徐々に材が集まって来ています。



地元から持ち込まれた桑材と桑炭

木炭協会では十一月三日に開催された甘楽町産業文化祭で炭火による焼きし

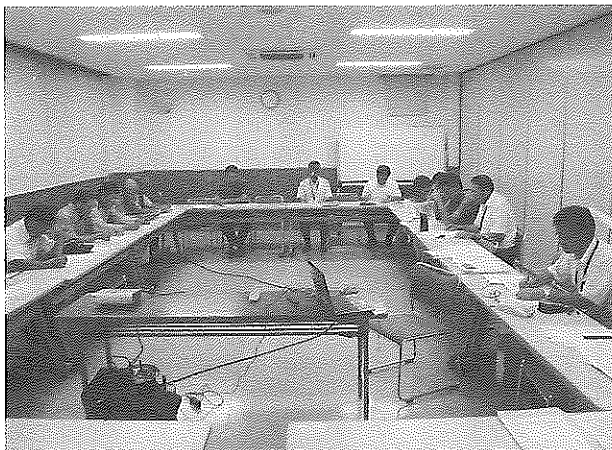
いたけ・焼きまんじゅうの実演販売を行う等、木炭のPRに取り組んでいます。会員の減少と高齢化が進み、後継者の育成が課題となっています。県では今後も協会および地元生産者と連携し、地域の森林資源を活用した木炭生産の技術継承に取り組んでいきます。

(富岡森林事務所通信員)

「吾妻地区の木材生産に係る協定」を締結

吾妻地域の木材生産の現状は、高性能林業機械を駆使した森林組合を含む数社の大規模事業者と、従来の林業形式の小規模・個人事業者とに大別されます。大規模事業者は国有林の仕事を中心としているため、管内の森林経営計画の実績は、一者を除き全て吾妻森林組合によるものです。

森林経営計画について、森林組合は森林施業プランナーを中心に多くの実績があります。林産班の作業量に制限があるため、作成が伸び悩んでいるところ。一方、素材生



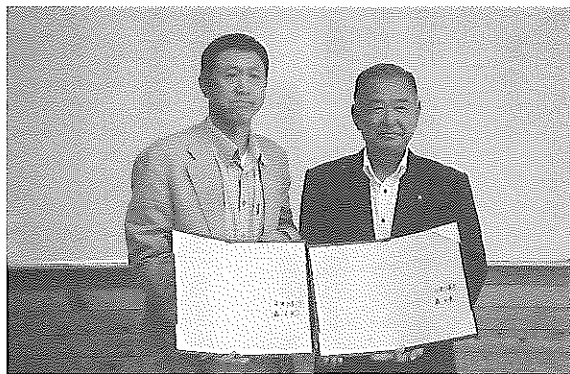
事前打ち合わせ会議

各地

産業者は人的余裕もなく、パソコンの扱いに不慣、情報不足など、作成は消極的です。

本来、森林組合も素材生産組合もそれぞれが森林経営計画を作成して林産事業ができれば良いのですが、現実的には難しい状況です。このような中で、森林組合と素材生産組合がお互いに協力して木材生産を増やすため、九月二十三日に『吾妻地区の木材生産に係る協定』を締結しました。

吾妻森林組合は、森林所有者や事業体の依頼に基づき積極的に森林経営計画を作成します。森林組合はさらなる増産を目指し、林業事業体は森林組合の作成した団地で林産事業を行います。



協定締結

役割分担してお互いの長所をうまく連携させ、相互協力体制を作り、地域の木材生産能力の向上を目指します。

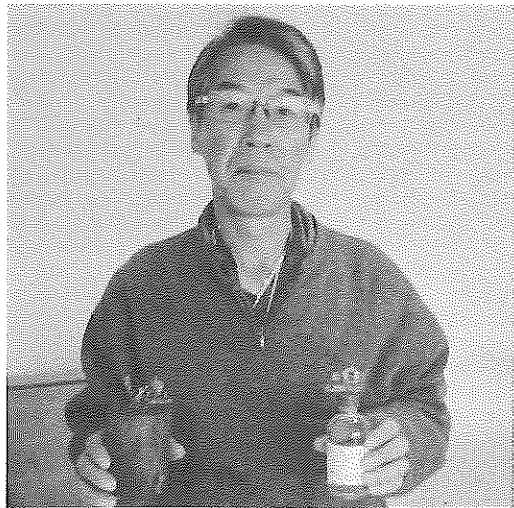
(吾妻環境森林事務所通信員)

「森の名手・名人」に認定

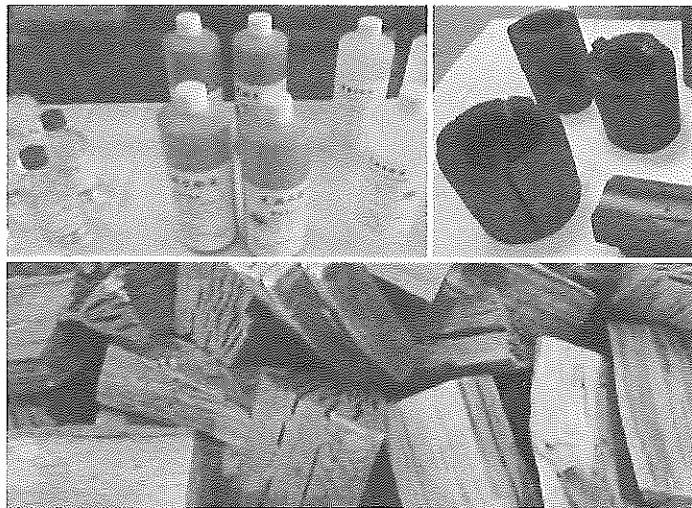
平成二十八年十月二十四日、本年度の「森の名手・名人」に加工部門（木炭製造業）で片品村の須藤賢一氏が認定されました。

須藤氏は片品村東小川に在住の五十八才、平成十八年から炭焼きを始め、父が長年にわたり研鑽し築き上げた製炭技術を受け継ぎ現在に至っています。

生産された炭は白炭のように火持ちが良く、着火しやすい炭で、白黒両方の良さを備えており「尾瀬木炭」として販売され、県内外から注文があるとのこと。炭焼きの副産物である木酢液については「尾瀬木酢液」として販売され、山桜の木を使用した木酢液



須藤氏と杉炭のハチ・木酢液



尾瀬木炭 木酢液 杉炭のハチ

を真空蒸留処理を行い、無色透明に仕上げた高級木酢液の製造に力を注いでいます。また、炭焼きの後継者を育てるため県外からの研修生を受け入れ指導にあたり、炭焼きの技術伝承に努め、地域のリーダーとして活躍しています。

父親である故・金次郎氏も平成十三年度に認定されており、親子二代の認定となり炭焼きの高度な技術が伝承されていることを証明しています。更なる御研鑽と御活躍を期待しています。

(利根沼田環境森林事務所通信員)

各地の便り

群馬の森体験教室を開催

十月二十三日(日)、館林木材協会と桐生森林事務所の共催、群馬県木材組合連合会の協力により、「群馬の森体験教室」を開催しました。

この体験教室は、普段、森林や林業に触れる機会が少ない都市部の子ども達に、林業や製材業の現場を見てもらい、森林の働きや県産材への理解を深めてもらうために企画したものです。

参加者は、ボーイスカウト館林第一団のスカウト及び指導者、合計三十六名で、小学校低学年から高校生まで幅広い年齢層の子ども達でした。

会場は、富岡森林事務所と下仁田町の小井土製材(株)に協力いただき、大桁県有林と同社製材工場としました。

当日は、邑楽館林地区から富岡下仁田地区へと大型バスにより移動しましたが、車内でも森林や木材に関するクイズを行い、正解者には景品を用意し、終始和やかな雰囲気でした。

大桁県有林では、森林の働きや間伐作業の必要性について説明をした後、実際に立木の伐採作業を見てもらい、胸高直径、樹高、林齢を当てるクイズを行いました。間近で聞く



大桁県有林にて

チェーンソーのエンジン音には子ども達も驚いているようでした。その他、木工工作や丸太切り体験を行いました。百年スギの見学では、その大きさや太さを実感している様子でした。

小井土製材(株)の製材工場では、日曜日にも関わらず機械を動かしていただき、小井社長自らが、木材利用の意義と、原木が製品になるまでの流れをわかりやすく丁寧に説明してくれました。子ども達も機械の動きや機械から出てくる製材品に興味深そうに見学していました。

子ども達は、真剣な表情で話を聞いたり見学を行っていて、良い経験になったのではないかと感じました。

(桐生森林事務所通信員)

四万林業協業組合

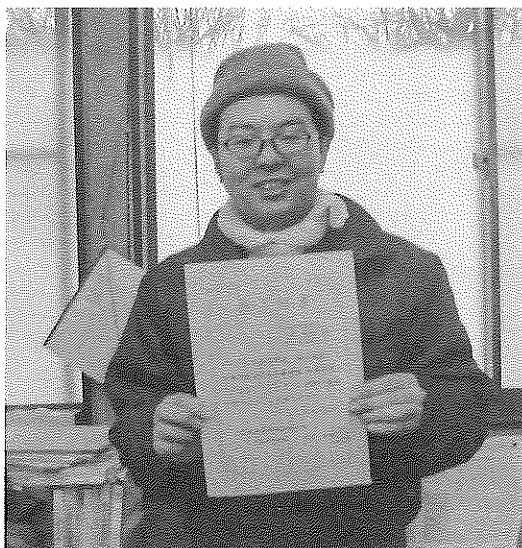
小嶋 慎也

一 趣味

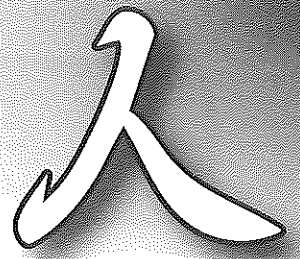
神社・仏閣巡り

二 今後の抱負

私はあまり体力に自信がなく、周りの人について行くのが大変な時もありますが今まで無事に過ごせました。これから大きな怪我をしないように頑張りたいです。まだまだ未熟なことも多いですが、経験を積み重ねて良い先輩になりたいです。



地域を担う



四万林業協業組合

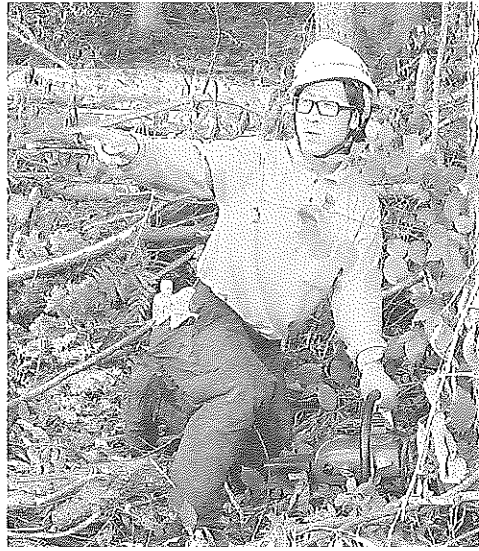
飯塚 実

一 趣味

スノーボード

二 今後の抱負

3年間の研修を活かし、安全を意識して、さらに仕事を覚えられるように日々頑張ります。



高山林業株式会社

剣持 正

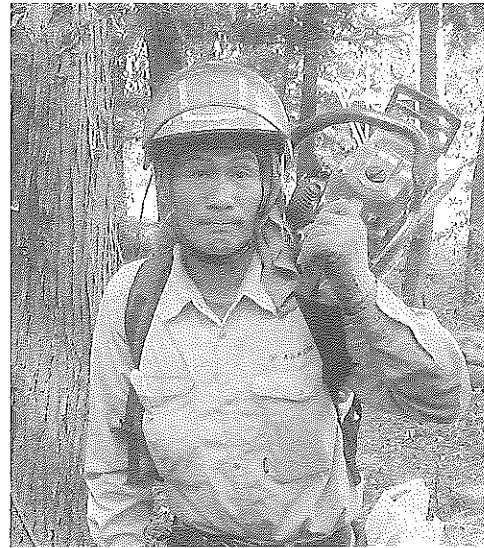
一 趣味

溪流釣り

二 今後の抱負

多くの経験を積み、技術を学び安全作業

を忘れずに怪我のないよう頑張っていきたいと思います。



立石木材株式会社

田中 星也



一 趣味

お菓子作り

二 今後の抱負

FW研修や現場で学んだ経験や知識を活かし技術を習得しつつ、次世代の林業体を担う1人として活躍できるように努力していきたいと思っています。

赤城造林有限会社

石坂 修三

一 趣味

スノーボード

二 今後の抱負

ケガなく仕事をする。



森の談話室

持続的な経営を目指して

高崎市下室田町 藤井 正吉さん

「森林県ぐんま」から「林業県ぐんま」へ飛躍する鍵となっている素材生産事業者の一人である藤井正吉氏からお話を伺ったので紹介します。

藤井氏は、立木の伐採・搬出を行う有限会社藤井木材を経営しています。藤井木材は、先代の文男氏が終戦後、運送業から薪炭を焼いて生計を立てていたようですが、建築材を扱う素材生産業に切り替え、共同組合への参加を契機に、平成5年に有限会社として立ち上がりました。

文男氏の次男である藤井氏は、その会社を平成十八年に引き継ぎ、現在に至っていますが、始めから林業に就業していた訳ではないそうです。高校卒業後、プラスチックを成形する成形工場に就職、その後、ボイラー技師として働いた後、藤井木材に入社したそうです。藤井氏は、小さい時から親の仕事の手伝いをしており、工場勤務していた時も休日は山に入って手伝いをしていたため、現場にも直に溶け込めたそうです。

工場勤務等で働いていた時は、作業が単調で仕事に物足りなさを感じていたそうです。

が、林業現場では、自分で考えながら働く仕事に遣り甲斐を感じたそうです。

(有) 藤井木材は藤井氏の他に5名の社員がおり、作業員は現在4名です。主に国有林や民有林の立木を購入し現在では大手企業の間伐、伐出請負なども増やし、素材生産を行っています。

搬出システムは、作業道開設、伐倒(チェーンソー)、木寄せ(グラップル(ウインチ併用)、造材(プロセッサ)、整理(グラップル)、集材(フォワーダ)となっているそうです。

木質バイオマス用のC・D材の搬出についての対応を伺うと、以下の様な回答が帰ってきました。

父親の代から、C・D材をチップ材として出来るだけ搬出している。会社の方針として、効率は悪いが、キレイな山造りを心掛けており、林地残材を少なくしている。

会社の今後の展望について伺うと以下の様に回答していただきました。

来春から息子が仕事を手伝ってくれることになっており、経営基盤をしっかりとしたものにして行きたいと考えている。素材生産量を現在の4,000m³から6,000m³ぐらいまで増やしたい。そのために、国有林の立木販売だけでなく、大手企業、他企業との連携も強化して、民有林についても、高崎地区素材生産組合の一員として地元森林組合等と



藤井氏とCT500B

連携していくことで仕事量を増やしていきたい。

また、若い人に就業してもらうには、機械化と福利厚生がしっかりしていることが必要だと感じている。もし、息子が継いでくれるのであれば、継いで良かったと思える会社にして渡したい。

息子さんが出稼ぎに就業していただけることについて尋ねると「息子が機械が好きなのと、小さいときに現場に連れて行っただけからかな」と少し照れながら話してくれました。

三代目の後継者が出来そうな(有)藤井木材の藤井正吉氏より、将来を見据えた心強いお話をしていただきました。

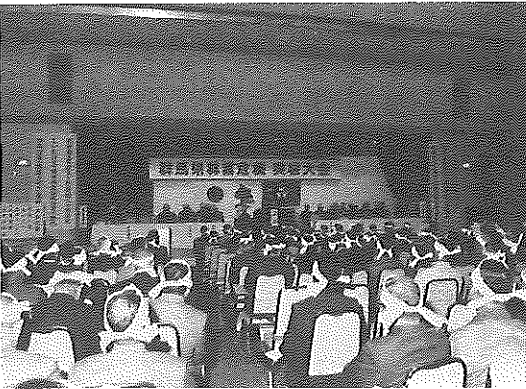
(西部環境森林事務所通信員)

大会突破機業林

○今回は第62号（1983年）から抜粋しました。

○1,000人を動員した大規模な大会でした。

林業危機突破大会開催される



十月十九日、群馬建設会館大ホールにおいて、当面する林業危機を突破し、林業の振興を図ろうと、林業団体の

- 群馬県森林組合連合会
- 群馬県木材組合連合会
- 全国山村振興連盟群馬県支部
- 群馬県治山林道協会
- 群馬県造林協会
- 群馬県林業改良普及協会

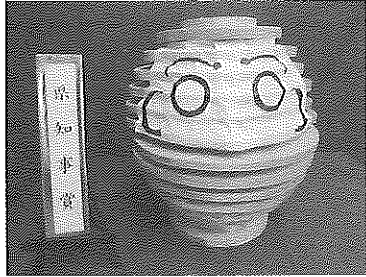
- 群馬県木炭協会
- 群馬県林研グループ連絡協議会
- 群馬県山林種菌緑化協同組合
- 群馬県椎茸農業協同組合
- 群馬県獺友会
- 群馬県素材生産組合連合会
- 群馬県広葉樹協同組合
- 群馬県広葉樹協同組合
- 群馬県木材青年協会
- 群馬県広葉樹協同組合
- 群馬県桐材組合連合会
- 群馬県公園造林協議会
- 群馬県林業公社
- 群馬県郷土緑化推進委員会
- 林業土木コンサルタンツ前橋支所
- 前橋林業土木協会群馬支部
- 前橋林業土木協会群馬支部
- 林野弘済会前橋支部
- 群馬県こけし協同組合
- 群馬県製材鋸目立協同組合連絡協議会
- 二四団体が主催し、群馬県の後援のもとで開催され、林業者約一、〇〇〇人が出席し、来賓に群馬県知事をはじめ各界より多数のご臨席を得て激励の言葉をいただき、議事にて
- 一、台風災害の早期復旧について
- 下仁田町森林組合長 古市完二氏

- 二、森林造成維持費用応益分担制度の早期確立について
- 黒保根村長 田沼新平氏
- 三、林業予算の充実と林業振興対策の推進について
- 上野村長 黒沢丈夫氏
- 四、木材需要の拡大と外材輸入の適正化について
- 群馬県木材組合連合会
- 副会長 岡部佳之氏
- 五、しいたけ等特用林産振興対策の強化について
- 群馬県椎茸農業協同組合
- 専務理事 深井元雄氏
- 六、緑化対策の推進と松くい虫被害の撲滅について
- 群馬県山林種菌緑化協同組合
- 副理事長 小坂橋正治氏
- の各位がそれぞれ提案され、満場一致で採択されました。
- しめくりに、県林研グループ連絡協議会長、高橋隆氏より、大会決議案が、（前略）われわれは、本県林業の地位を将来にわたって保持してゆくため、現下の危機打開に全力を傾けるとともに、さらに新たな発展を目指して、ここに、当局に対し、本大会の趣旨を具現する抜本的政策課題の実現を求め、決意を新たにしたい、下記事項（前記の六提案事項）

- の達成に邁進せんとするものである。
- 右決議する。との朗読提案し、全員賛成で決議されました。
- 次いで、多年林業関係業務に従事し、林業の振興発展に寄与し功勞のあった方々に対し表彰が行なわれました。受賞者は
- 森林組合 高橋貞二 中里村尾附
- 上原製鉄 松井田町新堀
- 宮崎新作 中之条町四方
- 藤生 勇 桐生市梅田町
- 経 関口茂雄 富士見村石井
- 木内利一 新治村入須川
- 関 鶴寿 中之条町四方
- 労 務 佐藤友吉 小野上村小野子
- 黒沢周次 藤岡市上日野
- 岩田好治 榛東村新井
- 種苗生産 西山重光 月夜野町後閑
- 佐藤金吉 下仁田町下仁田
- 武井二郎 松井田町新堀
- 藤生利八 桐生市梅田町
- 萩原助造 片品村土出
- 長谷川万吉 吉井町小串
- 吉田定雄 甘楽町天引
- 中曾根惣行 高崎市剣崎町
- 長沢藤太 新里村山上
- 黒岩清司 嬭恋村大前
- 永井竹男 前橋市岩神町
- 光井 勝 片品村土出
- 工藤平三郎 南牧村松沢

ト レ ッ ク ス

県内の小・中学生に「木材の良さ（温かさ・加工しやすさ等）」を知ってもらうために、木工工作コンクールを開催しました。群馬県知事賞受賞作品は次の3点です。



「電気だるま」

下仁田町立下仁田小学校
神宮 湊 (5年)



「ダンゴ虫の旅」

渋川市立津久田小学校
中山 侑也 (5年)



「兜」

みなかみ町立古馬牧小学校
鈴木 眞空 (6年)

◆11月2日(水)～5日(土)まで群馬県庁1階県民ホールにて作品展示が行われ、延べ2,097人の来場がありました。

第41回群馬県児童生徒
木工工作コンクール



前田さんの
デモンストレーション

上位入賞者

十一月六日に「群馬県林業技能競技会」が高崎市街地のもてなし広場で、群馬県森林組合連合会主催のもと開催されました。五百人を超える観客が見守るなか、十人のチェーンソーマンが技を競いました。

昼休みには、日本伐木チャンピオンシップ優勝者の前田智広さん(前田林業・青森県)によるデモンストレーションが行われ、その正確さとスピードに大きな拍手が送られました。競技結果は次のとおりです。

優 勝…細谷北斗さん(磯村産業)
準優勝…中林悠平さん(下仁田町森林組合)
第三位…鈴木幸宏さん(桐生広域森林組合)

群馬県林業技能競技会が
開催されました

群馬県農林水産業関係機関成果発表会

群馬県農林水産業関係機関による最新の研究や普及活動についての発表会を行います。林業分科会では、きのこ栽培技術の研究成果をはじめ、普及活動、獣害対策、種苗・木材に関する研究成果をご紹介します。また、県民ホールにて、パネル展示を行います。

日時…平成二十九年二月一日(水)
午前十時～午後四時

場所…県庁二十八階(林業分科会)
問い合わせ先…林業振興課きのこ普及室

TEL027・226・3235

きのこ品評会

群馬県産きのこの品評会を開催します。二日間の日程で、審査(二十四日)、表彰式・展示品の即売・きのこ汁の試食(二十五日)が行われます。即売日には、厳選されたきのこをお買い求め頂けますので、是非足をお運び下さい。

日程…平成二十九年一月二十四日(火)・二十五日(水)

場所…群馬県庁一階 県民ホール北側
問い合わせ先…林業振興課きのこ普及室

TEL027・226・3234

お知らせ

林業労働力情報

林業就業相談会



「林業に興味がある」「森林で働きたい」そんな希望を持つ人を応援するために、「森林の仕事ガイダンス」が開催されます。参加をきっかけに、林業に就いた方も、たくさんいらつしやいますので、興味を持たれた方は、ぜひ会場を訪れてみてください。

【森林の仕事ガイダンス群馬】

平成二十九年一月二十八日（土）

十三時三十分～十六時三十分

（受付は十六時まで）

ホテルメトロポリタン高崎中宴会場「白鷺」

高崎市八島町二二二（高崎駅西口直結）

【森林の仕事ガイダンス東京】

平成二十九年二月四日（土）

十三時～十七時

東京国際フォーラムホールB5

（JR有楽町駅より徒歩1分）

※詳細については、

群馬県森林組合連合会 指導課

（☎〇二七―二六一―〇六一五）まで

また、（一財）群馬県森林・緑整備基金では、林業就業支援地域アドバイザーによる「林業就業相談」を毎月、第二・第四火曜日に実施しています。

相談者お一人お一人に、一時間以上の時間を取っての相談対応をさせていただいておりますので、相談に来られる際には、まずは、お電話にてご確認をお願いいたします。

（☎〇二七―二二二―六二九五）

【林業就業支援地域アドバイザー 田村美恵子】

林業へ就業するまでの道のり

林業就業希望者

森林の仕事ガイダンス等に参加

林業に関する情報収集と

研修、就業への相談をする

林業就業支援講習（厚生労働省）

ぐんま林業学校（群馬県）

林業就業への基礎的知識、実地講習など

チェーンソー等の資格取得

就職活動／ハローワーク

林業労働力確保支援センター

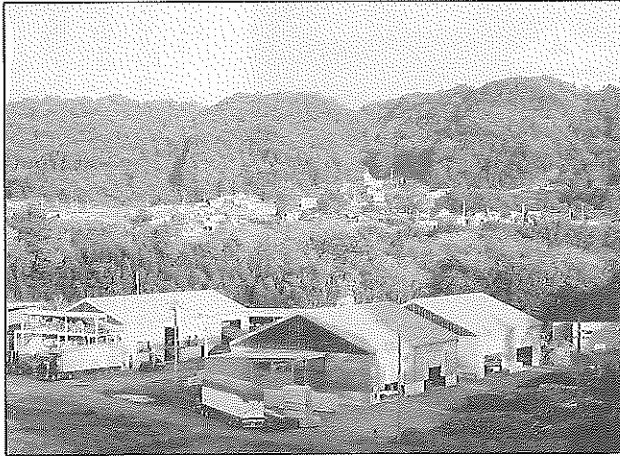
森林組合や民間の林業会社に就業

「緑の雇用」研修（林野庁）

林業の技術技能を習得するための

実務を就業先で研修

地域に定着して林業に従事



関東一の林業県を目指して！
渋川県産材センターから林業再生!!



群馬県森林組合連合会
代表理事会長 八木原 勇治

本所 前橋市上大島町182-20 ☎ (027)261-0615(代)
渋川県産材センター
渋川市白井乙佐又1236-4 ☎ (0279)22-5000(代)

ISO 9001・ISO 14001 認証取得
BCP 策定企業

水と緑と 安全をまもる

- おもな事業
- のり面保護工事
 - のり面緑化・壁面緑化
 - 湖沼や池の水質浄化

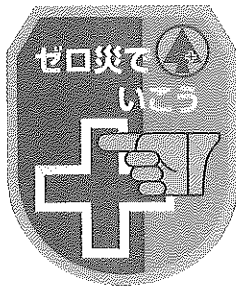


株式会社 高特

〒377-0003 群馬県渋川市八木原 224-14
TEL : 0279-22-2035 FAX : 0279-24-4547

迎
春

危険予知 目配り気配り ゼロ災害



林業・木材製造業労働災害防止協会群馬県支部

〒 379-2131 前橋市西善町 524-1

電話 : 027-266-8220

<http://gunma-wood.com>

月刊 林業新知識

山林所有者の皆さんとともに歩む月刊誌です。
仕事と暮らしの現地情報が読める実用誌です。

月刊 現代林業

激動の時代に対応したテーマを、読者の立場でわかりやすく。
「そこが知りたかった」が読める月刊誌です。」

購読のお問い合わせ、お申し込みは群馬県林業改良普及協会へ
TEL 027-280-6259 FAX 027-255-6265

発行責任者 群馬県林業改良普及協会
印刷者 新井雅博
杉浦印刷株式会社

うか。ひとりごと 新年おめでとうございます。イギリスのEU離脱、アメリカでのトランプ新大統領誕生など、先の読めない激動の時代にさしかかっている感じがしています。林業政策はこれからどんな方向に向かっていくのでしょうか。(K.A.)